

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立平原小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力向上では、これまでの取組を継続するだけでなく、家庭とも連携しながら、新しい方法を模索し課題解決に向けて取り組んでいかなければならない。令和4年度から指定を受ける「唐津市学力向上」指定校として、浜玉校区で話し合いを進めていく。</p> <p>・心の教育では、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を柱として、学校が組織的、具体的に対応できるようにしていく。さらに、学校の特色を活かしながら、児童の自己肯定感が高まるような機会を多く作っていく。あいさつのさらなる推進と言葉遣いの指導を行っていく。</p> <p>・保護者、地域連携では、家庭学習の充実、「進んであいさつをする」「自分の考えを伝える」「言葉を大切にすること」と基本的な生活習慣の確立に向けて、生活習慣点検週間を設ける等、全校的な取組を今後も積極的に実施していくことが大切である。保護者に対しては、便りなどでよりよい生活習慣の定着のための講演会を開催し、啓発・啓蒙を図っていく。また、学校に定着した「ひまわり」、「メダカ池・ホタル川」の充実を図り、情報を発信していきたい。</p> <p>・健康・体力づくりについては、外で元気よく遊ぶことの奨励とともに社会体育でのがんばりについても学校で積極的に紹介していく等、これまで通り連携を図ってきたい。</p>
------------------	--

# 2 学校教育目標

## 自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く平原っ子の育成

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>思いやりの心をもち、ふるさとを愛し、自らの夢を育む子どもの育成</li> <li>小規模学級・学校の強みを活かした学力向上への取組（自力解決力と振り返り力の育成）</li> <li>職員の協働意識と学校運営への参画意識を高める「チーム平原」の強化（共通理解と共通実践）</li> <li>保護者・地域・外部の人材とのさらなる連携強化</li> </ol>
------------	--

### 4 重点取組内容・成果指標

重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				(1) 共通評価項目						
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・小中9年間をとおして主体的に学び続ける児童の育成に関する取組について、浜玉校区で情報交換を行い、自己の実践の改善を図る。 ・校内研あるいは公開授業で1人1回は必ず研究授業を行い、全教職員で授業研究会を実施する。	・	・	・	・	・	・	学力向上担当 研究主任
	○児童に自力解決させる手立ての工夫 ○振り返りの共有・活用	○佐賀県学習状況調査において、個人結果の追跡調査を行い、無回答率・県対比の改善ができた児童80%以上 ○児童の意識調査で「学習の振り返りは役にたつと思う」の項目で肯定的な回答をした児童85%以上	・問題解決の見通しをもつことができるように、既習内容と比較等を通して、見方・考え方が働くような手立てをねむ。また、問題解決のための学び方が習得できるように手立てを継続的に取り入れる。 ・学習内容と学び方について振り返り、学級で共有・活用することで、児童の主体的な学習につなげる。	・	・	・	・	・	・	学力向上担当 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権や道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が80%以上	・挨拶運動等を推進し、児童の良さを垣張り称賛する。 ・人権集会や道徳科の授業を通して、互いを尊重し合うことのできる児童の育成を図る。 ・全職員共通理解のもと言葉遣いの指導をし、授業中は「さん呼び」の徹底を行う。 ・縦割り班活動を通して、思いやりの心を育てる。	・	・	・	・	・	・	人権・同和教育担当 道徳担当
	○いじめの早期発見・早期対応体制の充実	○いじめ防止について組織的な対応ができていますと回答した教員80%以上	・毎月児童に「いじめアンケート」をとる。また、学期に1回個人面談を行う。毎月職員的生活打合せを行い、いじめの早期発見に努める。 ・月1回全校で人権について考える集会や道徳の授業を通してお互いを尊重し合うことができる児童の育成を図る。 ・保護者やSC、SSWとの連携を行い教育相談体制を充実させる。	・	・	・	・	・	・	生活部・教育相談担当
●健康・体づくり	◎自主的な活動の場の保障 ・やり遂げた成果の自覚	○児童自ら企画・立案による活動を仕組み、やり遂げた達成感や活動への満足感を感じる児童が80%以上	・全校児童が楽しく参加して仲良くなるよう、たてわり班や委員会、行事などを充実させる。 ・様々な活動後に振り返りの時間を設定し、多くの児童が自分の感想や思いを伝えるようする。	・	・	・	・	・	・	特活部
	●「望ましい生活習慣の形成」	「規則正しい生活をしている」と答える児童80%以上	・学校で生活指導を行うとともに、生活習慣花丸運動等で保護者と児童が一緒に生活を見直す機会を設け意識啓発を行う。	・	・	・	・	・	・	生活部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○運動習慣の改善や定着化	○休み時間や昼休み、下校後などに進んで運動をしているかについてのアンケートで、肯定的な回答をしている児童80%以上	・学級レクの時間設定の推進と場の開放を行う。 ・昼休みなどの学年間交流での外遊びを推奨する。	・	・	・	・	・	・	保体部
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。 ○「効率的な業務に取り組んでいる」と自評する割合を80%以上	・各自でライフスタイルに合う定時退勤日を設定し、徹底する。 ・会議資料をデジタル化することにより、会議準備及び会議時間の短縮をする。 ・職員掲示板機能を活用し、連絡会の内容を効果的に伝達する。	・	・	・	・	・	・	教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目						
○特別支援教育の充実	○職員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関して、職員が「理解している」と回答する割合80%	・月1回の「生活打合せ」において特別支援学級在籍の児童の様子について情報共有の時間を設け、職員全体で指導にあたる。 ・随時、「支援会議」を開催し、学校での児童の様子や保護者の願いを共有する。 ・特別支援に関する校内研究会を開催する。	・	・	・	・	・	・	特別支援教育コーディネーター

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------